

# 虚子記念文学館投句特選句・令和七年一月

稲畑廣太郎 選

待春の潮の香となる松林

兵庫 田村恵津子

米寿へと一步門を出る初景色

京都 西村やすし

初空の光の鼓動差し込みぬ

兵庫 奥田好子

大寒の地を蹴る音の硬さかな

和歌山 中島紀生

登り来て一目五万戸初景色

大阪 須知香代子

集ひたる帯の模様にある淑気

兵庫 辻 桂湖

三十年を経てなほ街の悴みぬ

東京 宮村土々

会へば直ぐ雪の深さを問ふ友等

新潟 安原 葉

ずる休みしたる天帝寒の晴

石川 辰巳昌彦

雪うさぎ何もなくとも消えないで

滋賀 太田 慈

(青少年)

# 入選句・令和七年一月

|                 |    |        |                |    |       |
|-----------------|----|--------|----------------|----|-------|
| 冬あたたか草書のやうな羽根拾ふ | 大阪 | 押見げばげば | 風を切る前に尻餅櫓遊び    | 香川 | 葛原由起  |
| 初明り子規の句碑から夢殿へ   | 埼玉 | 小田毬藻   | くると回つて転けて櫓遊び   | 大阪 | 西尾浩子  |
| 初雀樂園のやうたはむれり    | 三重 | 水越晴子   | 福引の鐘に視線の集まりぬ   | 兵庫 | 山田佳乃  |
| 白雲を浮べ六甲淑氣満つ     | 兵庫 | 柄川武子   | 一車両泣初の児の響きけり   | 石川 | 辰巳葉流  |
| 炬燵して家居の歩数百歩未満   | 石川 | 白根寿子   | 渟泊の船内明かし年用意    | 兵庫 | 永沢達明  |
| しきたりの多き旧家や福寿草   | 兵庫 | 谷本逸歩   | 初夢や親戚一同登場す     | 兵庫 | 高橋純子  |
| 俳句本求め書肆奥日脚伸ぶ    | 大阪 | 多田羅紀子  | 競はざる性一輪の冬さうび   | 鳥取 | 前田 千  |
| 琴の音の雅びに古都の初神楽   | 奈良 | 山口廣世   | 俳磚の隅に青青冬の草     | 大阪 | 林 曜子  |
| 歳晩のギプスの脚のしらじらと  | 兵庫 | 日下富貴子  | 冬萌や友に残れる幼顔     | 兵庫 | 吉村玲子  |
| 十軒の村に淑氣の光差す     | 奈良 | 堀田ますみ  | 初明り金波湛ふる茅渟の海   | 兵庫 | 池田雅かず |
| 人は皆初日の影や詣でけり    | 兵庫 | 吉田知子   | 嫁がせてよりの食卓冬薔薇   | 香川 | 三宅久美子 |
| 白檀の香の封を切る淑氣かな   | 大阪 | ふじもと言果 | 人日や厨に弾む娘らの声    | 大阪 | 河辺さち子 |
| 注連飾りして休館の貼り紙を   | 兵庫 | 黒田千賀子  | 春隣俤抱き集ふ句座      | 兵庫 | 森岡喜恵子 |
| 聖夜果つ午前零時の魔法解け   | 奈良 | 河村久美子  | 須佐之男の俯瞰の大地初明り  | 兵庫 | 岸川佐江  |
| 預かりの孫の年玉いかにせん   | 大阪 | 北上美佐子  | 初風呂は巳歳を含む孫達と   | 兵庫 | 深尾真理子 |
| モットーは死ぬまで元氣福寿草  | 兵庫 | 宮本露子   | 希望とは諦めぬこと初明り   | 兵庫 | 玉手のり子 |
| 初夢の夫若返り給へしか     | 大阪 | 立入宮子   | 虚子館へ一月八日母子で来   | 大阪 | 多田羅初美 |
| 悴んでゐては踊れぬブレイキン  | 兵庫 | 上岡あきら  | 寒晴や棒のやうなる芦屋川   | 大阪 | 奥野千草  |
| 志高く持ちたり明けの春     | 兵庫 | 平田 恵   | 侘助や淋しき時に波となり   | 兵庫 | 池田文子  |
| 淑氣満つ一言主神に一願す    | 奈良 | 堀田建夫   | 護符を享く清荒神淑氣満つ   | 兵庫 | 山之口倫子 |
| 底冷の鹿ヶ谷行く墓めぐり    | 兵庫 | 小川孝子   | 臘梅は涙の香り袋かな     | 兵庫 | 川村ひろみ |
| 笑顔良き嫁の名も足し柳箸    | 大阪 | 杉山千恵子  | 諷詠の教へ育む冬木の芽    | 兵庫 | 足立朱麻  |
| 寒禽の声突き刺さる空の青    | 兵庫 | 涌羅由美   | 新巻やこれぞ幟と吾子はしやぎ | 愛知 | 海神瑠珂  |
| 御慶伸ぶ虚子山脈の一句会    | 京都 | 杉森大介   | 輪島塗十人分の雑煮椀     | 石川 | 伊東弥太郎 |

|                 |     |       |                 |     |            |
|-----------------|-----|-------|-----------------|-----|------------|
| ふらと来てひらひらへへ初雀   | 大阪  | 棕本望生  | 受け継ぎし祖母の包丁薺打つ   | 兵庫  | 阿曾宏之       |
| 雛の軸地下の句会の華やげる   | 兵庫  | 藤井啓子  | 日差せども尽きせぬ余寒露座仏  | 香川  | 藤田敦雄       |
| まだいける買初めはいざ十年日記 | 兵庫  | 松本 敬  | 比叡背にさざなみの揺れ鴨の群  | 三重  | 中島庸子       |
| 七福神詣りし夕の差し向かひ   | 神奈川 | 平野孤舟  | 一月や喜寿の夫に蘭の鉢     | 大阪  | 山田佳音       |
| 御宸幹床に一会の淑氣満つ    | 大阪  | 田邊育子  | 偲ぶとはもう会へぬこと二月来る | 大阪  | 谷本房子       |
| 待春やひかり満ちたる芦屋浜   | 兵庫  | 二瓶美奈子 | 臘梅や芦屋の浜に風渡る     | 三重  | 吉川博子       |
| 棟門をシャネルスーツの女礼   | 兵庫  | 風待ラテ  | 寒鯉の俠客めきし面構      | 大阪  | 徳永由起子      |
| 海の香を残し煮凝飯に溶け    | 兵庫  | 道中義臣  | 夕日差す時にも透けてゐる臘梅  | 三重  | 松村咲子       |
| 葉牡丹や店にぼぼぼ並びをり   | 兵庫  | 西尾登志子 | 寒肥に田畑の息吹よみがへる   | 大阪  | 室田妙子       |
| 火矢放つ三万坪の野焼かな    | 兵庫  | 大西美知子 | お山焼百態の火の走りけり    | 大阪  | 奥野千草       |
| 煮凝の骨しやぶりつつ忘我なり  | 兵庫  | 伊藤秀子  | 二月の眩しき光や汀子の忌    | 愛知  | 小野 薫       |
| 初鏡アブラカダブラ若くなれ   | 兵庫  | 岩水ひとみ | 塩だけよ女将秘伝のおでん出汁  | 神奈川 | 小林 心       |
| 白蛇のタオル泳がす初湯かな   | 兵庫  | 高市敦之  | 初詣あかるき影の混み合ふよ   | 東京  | 桜鯛みわ       |
| 初笑ハ行の五文字転がりて    | 兵庫  | 恵島祥一朗 | 雲とれて漆黒の闇星冴ゆる    | 兵庫  | 西村みどり      |
| かさねた手ひらいてみれば寒椿  | 滋賀  | 太田怒忘  | 偲ぶ歩の行つたり来たり梅ふふむ | 大阪  | 田中靖子       |
| 売る家を寒の水もて浄めたり   | 神奈川 | 斉藤苑子  | 日脚伸ぶ愛犬放ち野を駆ける   | 東京  | 高橋育夫       |
| 子ども靴残りしベンチ春驟雨   | 奈良  | 豚々舎休庵 | 一本の臘梅館を楽しみて     | 大阪  | 林 曜子       |
| 父母義父母鴨居に並ぶ炬燵部屋  | 滋賀  | 近江堇花  | 水打ちて師を偲ぶ庭日脚伸ぶ   | 兵庫  | 細田清子       |
| 冬の鳥きままに遊び汀子邸    | 兵庫  | 辻田あづき | ちくわにも浮き沈みありおでん酒 | 兵庫  | 大変楽太郎      |
| 初電話感度良好なるドバイ    | 兵庫  | 岩鼻絹子  | 雪雲や火もご馳走のあぶり餅   | 兵庫  | キートスばんじょうし |
| 朗々と海より大晦日の日の出   | 静岡  | いたまき芯 | 冬晴れに亡き友を見ん大比叡   | 兵庫  | 伊集院秀樹      |
| 週末の夫と囲碁打つ掘炬燵    | 愛媛  | 星月彩也華 | 寒牡丹崩れひとひら苞の外    | 神奈川 | 金子三奈乃      |
| あらたまの初寄りの日の舞妓かな | 兵庫  | 福田光博  | 初空の青のとどいて目覚めけり  | 神奈川 | 進藤剛至       |
| 地震句碑に偲ぶ面影一月来    | 兵庫  | 北井真有美 |                 |     |            |
| 同居人退寮螢贈りけり      | 熊本  | 貴田雄介  |                 |     |            |